

2019年度 日本文化人類学会 第2回 理事会 議事録

日時：2019年5月31日（金）17：00～20：00

場所：東北大学川内北キャンパス川北合同研究棟 436 室

<出席理事>清水展、綾部真雄、飯田卓、石井美保、石田慎一郎、伊藤泰信、風間計博、亀井伸孝、川田牧人、木村周平、窪田幸子、栗田博之、佐々木重洋、曾我亨、高倉浩樹、棚橋訓、速水洋子

<出席監事>鈴木正崇

<委任状提出者>赤堀雅幸、中谷文美、松村圭一郎、森田敦郎、森山工、箭内匡

〔承認事項〕

1. 2019年度第1回理事会議事録（案）
2. 新入会員（10名）につき、業務執行理事で入会を承認したことを報告し、事後承認。

〔報告事項〕

1. 代表理事報告
 - ・任意団体の精算が3月31日付で完了し、法人化に関わる一連の手続きを終えたことを報告。
 - ・今後の研究大会開催校についての交渉状況について報告。
2. 庶務理事報告
 - ・5月31日時点での委員会構成について確認。
3. 会計理事報告
 - ・2018年度の決算にあたり、従来の収支報告書に加え、法人化に伴い損益計算書と貸借対照表を作成したことを報告。芝税務署に出向き、これらの決算書類については、本学会が非営利型の一般社団法人であり、収入合計が8000万円以下であることから税務署への提出は不要だが、事務局で適切に保管しておく必要があることを確認。
 - ・2018年度の会計について、4月23日、24日に第28期監事による内部監査を実施したことと、監事から次の2点の意見を受けたことを報告。
 - ① 会員名簿冊子について、経費や刊行作業に伴う負担の軽減や個人情報保護等、発行休止の理由も理解できるが、名簿刊行の意義もあるので、再刊行を視野に入れて、個人情報保護をクリアする方法等の検討が必要ではないか。
 - ② 理事交通費の支出が抑えられていることについては、メール会議の実施等、経費削減の努力として評価できる点もあるが、理事会出席率の低下の結果でもある可能性があり、この点についてはなんらかの対策が必要ではないか。
4. 総務理事報告
 - ・人類学関連学会協議会の合同シンポジウムの準備状況について報告。
5. 広報理事報告：
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき10件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
6. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：84巻1号、2号の進捗状況について報告。年度内に寄稿規程、執筆

細則を改訂予定であることを報告。また、先日 JASCA-INFO で配信した通り、投稿時には英文要旨不要として受け付けていること、英文要旨は JRCA にも掲載予定であることを報告。

- ・ JRCA 編集委員会：Vol. 19-1 からデザインを変更したことを報告。
 - ・ 国際化グローバル化対応委員会：窪田理事より、今年度も IUAES 会議に学会を代表して参加予定であること、および今後の IUAES の開催予定を報告。
 - ・ 学会歴史委員会：神奈川大学常民文化研究所で閲覧公開されている文化人類学者・民族学者のインタビュー映像記録について、一部が一時公開停止となっている経緯を確認したこと、今後両氏の遺族に連絡を取り、改めて公開について相談する予定であることを報告。
 - ・ 地区研究懇談会：各地区の研究会の実施状況、実施予定について報告。
 - ・ 次世代育成セミナー実施運営委員会：松村理事に代わり木村理事より、今年度次世代育成セミナーを東日本会場（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）のみで 11/17 に実施すること、JASCA-INFO で募集案内を配信することを報告。
 - ・ 医療者向け人類学教育連携委員会：ワークショップ「医師とともに考える医学生向け人類学教育ワークショップ—医師養成のフィールドに文化人類学の種を蒔く」（7 月 13 日於東京医科大学）を開催すること、順調に参加申込みを受け付けていることを報告。
 - ・ 植松東アジア研究基金委員会：選考委員による選考を経て 3 件を採択したことを報告。
7. 日本学術会議文化人類学関係分科会報告
- ・ 窪田理事より、文化人類学に関連する 3 つの分科会が政府への提言をまとめるべく活動中であること、本件については社員総会で報告を行う予定であることを報告。

〔審議事項〕

1. 2018 年度事業報告（案）・2019 年度事業計画（案）について
 - ・ 木村庶務理事より、前回からの変更点を中心に説明があり、審議の結果、文言調整の上、承認された。この事業報告（案）については社員総会へ諮り、事業計画については報告事項とすることが確認された。
2. 2018 年度決算（案）・2019 年度予算（案）について
 - ・ 石田会計理事より、前回からの変更点を中心に説明があり、審議の結果、承認された。決算（案）については社員総会へ諮り、予算については報告事項とすることが確認された。
3. 台湾人類学会でのラウンドテーブルについて
 - ・ 窪田「国際情報発信強化」特別委員会委員長より、台湾人類学会の年次大会で合同ラウンドテーブル開催の提案があったことが報告され、審議の結果、これを受けて学会から数名を派遣すること、派遣者の選定は「国際情報発信強化」特別委員会委員長に一任することが承認された。
4. 今後の研究大会の運営方針について
 - ・ 曾我研究大会運営検討委員会委員長より、研究大会を引き受ける開催校が不足している現状を改善するため業務負担の軽減を目的とした分担のあり方として、実施委員会を理事会内に置くとともに、開催校と支援校に事務局を設置すること等の提案があった。意見交換の結果、理事会で出された意見と今大会の経験を踏まえ、今回の提案を骨子として検討を継続することとした。
5. 研究大会査読規定について
 - ・ 研究大会査読委員会委員長より、研究発表に関する査読規程について、①研究大会査読者を任期後に公開すること、②過去 3 回の研究大会で行った発表と重複しないかを評価基準から削除

すること、③発表の可否の最終決定権は実施委員会委員長が有すること、④査読規程の不採択者の次年度の優先に関する記述を削除することが提案され、この提案に基づき規程の文言を調整した上で、2019年5月31日より施行することが承認された。

6. 第6回国際北極研究シンポジウムの後援について

- ・木村庶務理事より、北極環境研究コンソーシアムから第6回国際北極研究シンポジウム（2020年3月2日～6日於一橋大学）の後援依頼があったことが報告され、審議の結果、学会後援とすることが承認された。

7. 委員会の構成に関わる提案

- ・川田総務理事より、来年度以降の委員会構成に関わる提案がなされ、意見交換が行われた。評議員（社員）も積極的に各種委員会の委員に就いてもらうとの提案、依頼の手順、予算の策定、要求、執行などについても意見交換がなされ、引き続き検討を行うこととした。
- ・次回理事会より、地区研究懇談会の開催日程については、各地区から広報・情報化委員会へ広報用に寄せられた開催情報を基に広報理事が行うこと、それ以外の地区研究懇談会に関する情報については、各地区担当理事が報告することとした。

8. 2019年度育志賞の学会推薦について

- ・木村庶務理事より、「第10回日本学術振興会育志賞」の学会推薦候補者の募集（5月20日締切）について、複数の応募があり担当委員会で選考を行ったこと、選考結果が総務会へ提出されたことが報告され、選考結果に基づき学会推薦を行うことが承認された。

9. 第9回（2020年度）三島海雲学術賞の候補者推薦について

- ・木村庶務理事より、「第9回（2020年度）三島海雲学術賞」の学会推薦依頼があったことが報告され、例年通りの手順でJASCA-INFOで会員に向け学会推薦者の募集案内を行うことが承認された。

10. 今後のGEAHSSのあり方について

- ・欠席の中谷理事に代わり窪田理事より、以前検討されていた持ち回り事務局については当面設置しないこと、参加学会からの会費徴収は学会規模に応じて金額を設定するとのGEAHSSの方針が説明され、承認された。

11. 学会公開シンポジウムのタイトル変更

- ・川田総務理事より、学会主催の公開シンポジウムのタイトルを「医学教育と文化人類学の新しい協働の形：現場への貢献可能性を探る」へ変更することが提案され、承認された。

12. その他

- ・今年度実施予定の評議員選挙について、電子投票を導入する可能性について検討した結果、現時点で業者が提供する電子投票システムでは匿名性が担保されないという懸念があることから、今回は従来通りの方式で行うことが確認された。
- ・鈴木監事より、植松基金以外の各基金についても若手支援のために積極的に活用できるよう会長主導で進めてはどうかとの意見が出された。
- ・社員総会で黙祷を捧げる物故会員について確認を行った。
- ・第3回理事会は7月20日（土）14:00～開催予定、於首都大学東京秋葉原サテライト。

以上